

2024年3月17日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第66巻第49号(通算3381号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさまがすべてのひととともにおられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもって歩みを起こす人がみな、
減びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

じゆなんせつ
レント(受難節)
だい しゅじつれいはい
第5主日礼拝

れいはい
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
しちょう
もご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう
前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん
招きの詞 詩編 22編 28節

さんびか ばん にな じゅうじか
賛美歌 21-305番「イエスの担った十字架は」(1-5節) (©JASRAC)

しょうとう ことば
消灯の詞

せいしょ
聖書 ヨハネによる福音書 12章 20-36節

いの
お祈り

さんびか ばん ひかり こ
賛美歌 21-509番「光の子になるため」(©JASRAC)

メッセージ 「もちろん、不安はあるけれど」 牛田 匡 牧師

さんびか ばん ひかり ま きょうだんさんびかいいんかい
賛美歌 21-502番「光のある間に」(©教団讚美歌委員会)

しゅいの ばん てん わたし ちち きょうだんさんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物 (*)

はけん ばん かみ めぐ う
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく
祝福 牛田 匡 牧師

こうそう
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほうこく
報告 (4頁をご参照ください)

せき すわ
《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 22編 28節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

地の果てまで／すべての人が主を心に留め、立ち帰るように。
国々のすべての氏族が御前にひれ伏すように。

消灯の詞 (参照：ルカによる福音書 23章 32-43節)

イエス様が、十字架の上で苦しまれながらも敵をゆるされたことを思いながら、5つ目のろうそくを消します。

聖書 ヨハネによる福音書 12章 20-36節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

²⁰ さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。²¹ この人たちが、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとに来て、「^aお願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。²² フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。²³ イエスはお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。²⁴ よくよく言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。²⁵ 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至る。²⁶ 私に仕えようとする者は、私に従って来なさい。そうすれば、私のいる所に、私に仕える者もいることになる。私に仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」 (脚注 a: 直訳「ご主人様」)

²⁷ 「今、私は心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、私をこの時から救ってください』と言おうか。しかし、私はまさにこの時のために来たのだ。²⁸ 父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「私はすでに栄光を現した。再び栄光を現そう。」²⁹ そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。³⁰ イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、私のためではなく、あなたがたのためだ。³¹ 今こそ、この世が裁かれる時。今こそ、この世の支配者が追放される。³² 私は地から上げられるとき、^b すべての人を自分のもとに引き寄せよう。」³³ イエスは、ご自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。³⁴ すると、群衆は言葉を返した。「私たちは律法によって、メシアはいつまでもおられると聞いていました。それなのにあなたは、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とは誰のことですか。」³⁵ イエスは言われた。「光は、今しばらく、あなたがたの間にある。闇に捕らえられることがないように、光のあるうちに歩きなさい。闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。³⁶ 光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」

(脚注 b: 異本では「すべてのものを」)

《先週のメッセージより》3月10日 受難節第4主日礼拝

「別れの食卓」より

水谷憲牧師

聖書 ヨハネによる福音書 12章1-8節

ベタニアは、イエスがマルタとマリアのきょうだいであるラザロを死者の中からよみがえらせた場所でもあった。イエスがそこを再び訪れた時、夕食が用意され、ラザロも共に食事の席にいた。そこに、マリアが高価なナルドの香油を1リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でぬぐいはじめた。ナルドの香油1リトラは326グラム。イスカリオテのユダに言わせると300デナリオン、人が1年間暮らしていけるくらいの値打ちで売れる物であった。イスラエル歴代の王はみな頭から油を注がれて王になった。「メシア」「キリスト」という呼び名も「油注がれた者」という意味。しかしマリアはイエスの頭でなく足に香油を塗り、自分の髪の毛でぬぐった。マリアは「自分たちは救っていただいた立場。イエス様の頭に香油を注ぐことができるほど立派な者ではない」と考えていたのかも知れない。しかし、十字架による死に向かっているイエスのことも、マリアはうすうす察していて、そんなイエスに対する、マリアの心を込めた最大限のもてなしが、高価な香油をイエスの足に塗り、自分の髪の毛でぬぐうという一連の行為だったのではないか。

マリアがイエスの足に香油を塗ると、「家は香油の香りでいっぱいになった」。香油の香りは、油注がれた者に対する神の祝福の象徴。そして、この3人のきょうだいのイエスに対するたとえようもない感謝と慈しみ、思いやりも、その場を豊かに満たしたであろう。その一方、空気をまったく読めていないユダは「なぜ、この香油を300デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか」と、興ざめなことを、もっともらしい口実をつけて言い、マリアを非難する。「貧しい人々はいつもあなた方と一緒にいるが、私はいつも一緒にいるわけではない」という言葉の意味を、誰よりもよく分かっていたのは、マリアたちきょうだい3人だったのかも知れない。

2週間後には受難週を迎え、イエスとの別れが訪れる。しかし、イエスといったん別れても、私たちには復活のイエスとの出会いが約束されている。イエス・キリストの十字架への歩みを、残るレントの日々、共に謙虚にたどっていききたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 3月10日 受難節第4主日礼拝

礼拝出席 大人6名

献金 大人 6,000円 中継視聴者数7回 感謝

◎次週 2024年3月24日(日) 棕櫚の主日(受難節第6主日) 礼拝

招きの詞 ゼカリヤ書 9章9節

聖書 ヨハネによる福音書 18章28-40節

メッセージ 「真実とは何か」牛田匡牧師

賛美歌 305(©JASRAC)、307(©改訂委)、296(©P.D.)、314(©改訂委)

今年のレント(受難節・四旬節)は、2月14日(水)から3月30日(土)までです。レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかについて考える時です。

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・3月20日(水・祝)10時半~14時半に東梅田教会にて「部落解放協議会2024」が開催されます(主催大阪教区部落解放委員会)。参加費は500円(昼食付)事前申し込みは不要です。映画「かば」を鑑賞し、昼食をとりながら部落差別について、ざっくばらんに話し合います。どなたでもご参加ください。
- ・大阪・京都・兵庫3教区の共同開催で1月より開催されている連続講座「大阪・関西万博を考える一排除・環境・歴史」の最終回が3月20日(水・祝)15時~17時に、東梅田教会にて行われます。講師の原口剛さんより「虐げられた者たちの声を聴け 大阪・関西の博覧会史を掘り起こす」というお話を伺います。会場での対面参加だけでなく、ZOOMでのオンライン視聴も可能です。ZOOMでのオンライン視聴参加をご希望の方は、下記よりお申込みください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
3/24	牛田匡牧師	おにぎり支援
3/31	水谷憲牧師	イースター礼拝・誕生者祝福式 愛餐会(昼食会)
4/7	牛田匡牧師	ユーカリスト・考える会
4/14	水谷憲牧師	(第二好意の庭・感謝祝福式)

主催:日本基督教団大阪教区 部落解放委員会

部落解放協議会2024

2024年3月20日(水)10:30~14:30
参加費:500円(昼食付)※申し込み不要
於:日本基督教団 東梅田教会
(住所:大阪市北区野崎町9-6)

映画 観賞会

今回の部落解放協議会では、川本 貴弘監督による映画「かば」を鑑賞し、入場料及び部落差別について考える時を持ちたいと思います。昼食を取りながらざっくばらんに話し合います!!

1985年、夏、私たちはセンガもアツかった。

昭和と平成、異国にまた異なる問題を抱える環境の中、生徒たちと正座から向き合った。実在した中学生教師たちの生き方を描いたドラマ。1985年夏、豊後国豊後郡にある大阪府東区北郡の中津町。数人の中学生と出会った。先生たちは、偏見から教師たは手を引いていた。臨時教師として赴任してきた加藤先生が生徒を受け入れていく。先生は希望の野球で生徒と向き合うこととなる。教師生活になった加藤先生、家庭を顧みない母親、遠慮の毎日、解雇の父と暮らす女学生、出身地を他人に告白することができない専業主婦、親戚の交代に代わって家族を支える学生生活など、さまざまな事情を抱えた生徒たち。加藤先生から教師たちは、彼らと向き合い、時には生徒の家庭へ遠征して入らぬまで、彼らの生き方を確信する。主人公・加藤先生は大阪出身の神戸出身の若者が、監督「かば」の日本映画。(映画.comの紹介文より抜粋)

東梅田教会 アクセス

お問い合わせ
taisyoumegumi.church@gmail.com
大阪教区事務局 06-6761-8562

大阪・関西万博を考える

「排除・環境・歴史」

—メガイベントはもういない—

いま大阪では、2025年開催予定の「大阪・関西万博」に向けて、インフラ整備や再開発が急ピッチで進められています。しかし、その過程で行われているのは、強制排除であり、自然破壊です。そして、2019年4月の越中つるのあいりん組合センターの強制閉鎖は万博・カジノを見据えて行われ、120年前に大阪で開催された万国博覧会の際に行われた下層労働者の排除の歴史を繰り返すものです。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ですが、いま行われているこれらのことはそのテーマに真っ向から反するものであり、命の輝きを奪い、破壊するものにほかなりません。

京都教区「教会と社会」特設委員会、兵庫教区社会部、大阪教区社会委員会はこのような大阪・関西万博に反対し、万博をめぐるこれらのことを学ぶための連続講演会を開催します。この連続講演会をとおして、命を傷つける万博に反対する声が広がり、神の創られた世界と命が回復されるようにと願っています。

第1回 「排除」 講師 いちむらみさこさん
感動ビジネスと生活破壊—OLYMPICS KILL THE POOR
日時: 2024年1月28日(日) 午後3時~5時
会場: 日本基督教団 室町教会

第2回 「環境」 講師 村澤真保呂さん
「SDGs万博」の欺瞞を暴く—自然と人間の新たな転換に向けて
日時: 2024年2月25日(日) 午後3時~5時
会場: 日本基督教団 宝塚教会

第3回 「歴史」 講師 原口剛さん
虐げられた者たちの声を聴け—大阪・関西の博覧会史を掘り起こす
日時: 2024年3月20日(水・休) 午後3時~5時
会場: 日本基督教団 東梅田教会

お申込み 講演会はZOOMでも配信します。ZOOMからの参加をご希望の方は、QRコードでGoogleフォームからお申し込みください。室町教会送野郵便一休様までE-Mailにてお申し込みください。

E-Mail : asano_kenichi@muromachi-church.org

日本基督教団京都教区「教会と社会」特設委員会、日本基督教団兵庫教区社会部、日本基督教団大阪教区社会委員会は